

教科・科目	対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
地理歴史 ・ 世界史 A	1 年	2	世界史 A (実教出版)	『プロムナード世界史』（浜島書店） 世界史 A 演習ノート（実教出版）
科目の概要 と目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考を培う。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
授業の 進め方	講義形式を主にするが、教科書や資料集を用いて資料の読み取りなどの活動を随時行う。			
評価の観点 と方法	観点 ・ 関心・意欲・態度 近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 ・ 思考・判断・表現 近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・ 資料活用の技能 近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・ 知識・理解 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。 方法 定期考査、提出物（ノート、レポートなど）			
	学期	単元・学習項目		学習内容・到達度目標
年 間 の 授 業	1 学 期	近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動 ○ 1 9 世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 4 ウィーン体制とその崩壊 5 ヨーロッパ国民国家の発展		・ 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。
	2 学 期	6 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 7 東アジアの変容と日本の近代化 地球社会と日本 ○ 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦		・ ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を扱い、19 世紀の世界の一体化とその特質を理解する。 ・ 輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20 世紀という時代の特質を人類的視野から把握する。 ・ 第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義などについて考察する。
	3 学 期	○ 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊 ○ 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動		・ 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。 ・ 1970 年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解させ、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向などについて考察する。